

皆さんの声聞かせてください

南日本新聞枕崎支局長
神野卓也さん(39)



南日本新聞枕崎支局長の新たな支局長に、神野卓也さんが本社文化部から赴任されました。神野支局長は入社15年目。これまで本社以外に鹿屋支社、東京支社で勤務されてきました。抱負をお聞きしたところ、「人口減少が始まり、日本の社会は大きく変わろうとしています。いま『格差』が話題になっていますが、今後は教育や雇用をはじめ、あらゆる面で深刻な問題が浮上してくると思います。地方で生きるということの意味を、

枕崎の地でじっくり考えてみたい」と語られました。また、「食べることが大好き」と、早速『かつおラーメン』を食べられたというところで、「立场上言えませんが、某市の某ラーメンよりもおいしい」と語っていただきました。「ここ数年は地方に暮らす方とふれあう機会が少なかったの、枕崎ではたくさんの方の声を聞きたいです。気軽に声をかけてください。」

◎南日本新聞枕崎支局
TEL 720245

◎投稿をお待ちしています。
総務課 TEL72-0033



俳句・短歌

限りなき、
幸ただよわす
ほほ笑みに
みどりごみつむ
愛のまなざし

投稿者 児玉里津子さん(鹿籠麗町)



池上 元ちゃん(3カ月・立神本町)

祝

大相撲行司・式守與之吉さん(本市出身)が三役行司に昇進



今年の大相撲春場所、取組の終盤で「式守與之吉(しきもりよのきち)」という行司を見た方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この式守與之吉さんは、本市山手町出身で、本名・山崎敏廣さん(59)。今年3月1日に幕内行司から三役行司に昇進しました。行司の最高位は立行司の木村庄之助と式守伊之助の二人ですが、三役格はこれに次ぐ位で現在5名。主に、三役(大関、関脇、小結)の取組の行司を行います。

山崎さんは、昭和39年に当時折口町で「巴三國」を経営していた元井筒部屋力士の三國山の紹介で、式守敏廣として井筒部屋に所属。昭和60年一月場所まで十兩格に、平成7年一月場所まで幕内格に昇進し、平成13年一月場所まで式守與之吉に改名されました。行司の仕事の一つに、相撲文字を書くという仕事があります。相撲文字は、特徴のある力強い筆文字で、看板や番付表などでご覧になった方も多いと思われませんが、山崎さんは、その番付表の書き手としても活躍されています。入門してすぐに筆文字の訓練を始められ、精進に精進を重ね、30年以上かけて本番付の文字を書くに至ったということです。力士同士の白熱した取組に加え、式守與之吉の鮮やかな軍配さばき、長い精進を重ねて作られる番付表と、大相撲の楽しみが広がります。地元出身の行司、式守與之吉さんをみんなで応援しましょう。



三役行司・式守與之吉(写真は幕内行司のときのもの)

桑原俊二さん(35)が農林水産大臣賞

若き菊づくりの後継者が快挙!



平成18年県春期フラワーコンテストが2月1日に開催され、県内各地から様々な種類の花き314点が出品される中、大塚南町の桑原俊二さんが見事に金賞1等1席を獲得し、農林水産大臣賞を受賞されました。桑原さんは、高校を卒業後県フラワーセンターで花き栽培の研修をされていました。20歳の頃、花き栽培をしている実家の後を継ぎ、以来、父親の悟さんや家族と共に菊づくり一筋で頑張っています。農林水産大臣賞は以前、悟さんも受賞しており、親子での快挙ということでした。菊づくりについて桑原さんは、「気象にとっても左右されとにかく油断ができない。一年通して手がかり、難しいです」と語っていましたが、その手間をかけた大事に育て上げた菊が受賞。「この賞はとても励みになります。地域の菊づくりの先輩方にも、大変喜んでもらいました」と語られました。取材場所のピニールハウスは、出荷を待つ美しく繊細な紫色の菊の花で埋め尽くされていました。これからも見事な花を咲かせて、枕崎に元気を与えてください。

今が旬

ソラマメ

近年、市内全域でソラマメ畑が見られます。寒い冬を乗り越え、丸々と太ったソラマメは、今が出荷の最盛期。塩茹でにして、ホクホクとなった実を食べると、ほっぺたが落ちます。



海の幸・山の幸など、その時季の旬の食材などを紹介します。



初ガツオ

枕崎では例年2月ごろから初ガツオが水揚げされます。今年も色艶が美しく、身の締まった初ガツオが近海魚市場を賑わせています。